

プラス記事 10%増、ニュートラル・マイナス記事 6%増 通信各社の格安大容量プランが話題に みずほFG、読売の連載でランクイン

10月度のプラス評価は89億6440万円、ニュートラル・マイナス評価は45億9243万円だった。前月と比較するとプラス換算値は10%増、ニュートラル・マイナスは6%増だった。10月は2020年で最大のプラス換算値となった。人物関連の換算値が伸びて順位が浮上した企業が多く見られたほか、スマートフォンの新商品や料金プランの話題で通信各社が上位にランクインした。

1位KDDI(au)は、過去10年間で初のトップとなった。日経「私の履歴書」に小野寺正相談役が登場したことが主な換算値増の要因だが、大容量データ通信サービスの低価格プラン発表も注目された。高橋誠社長が携帯電話料金の値下げ具体策について「近く明らかにする」と表明した16日から記事が増加。2021年2月以降にUQモバイルブランドで20ギガバイト3980円の新プランを提供するとの正式発表を28日に各紙が一斉に報道した。28日と29日の2日間の合計換算値は5203万円となった。

大容量データ通信の料金引き下げでは、4位ソフトバンクもサブブランドの「ワイモバイル」で1回10分までの通話込みで4480円となる新料金プランをKDDIと同日の28日に発表した。

その他通信関連では、3位アップル(米)が5G対応の『iPhone12』を発表し話題となった。KDDI、ソフトバンクと5位NTTドコモは相次いで同商品の販売価格を公表。3社の「販売」の換算値はそれぞれ全体の23%、62%、39%を占めた。

13位みずほフィナンシャルグループは、読売の連載「企業研究」で取りあげられたほか、日経のシンポジウム「金融ニッポン」への坂井辰史社長の登壇などで換算値を伸ばした。同社が20位以内に入ったのは2017年1月以来3年9カ月ぶりである。

18位サムスン電子は、李健熙会長の訃報が26日紙面で一斉に報じられたほか、スマートフォン販売の急回復により2020年7-9月期の売上高が過去最高を更新したことが注目された。

■プラス記事掲載ランキング

換算値:千円

順位	企業名	換算値	主要な掲載要因
1	KDDI(au)	322,371	日経「私の履歴書」に小野寺正相談役が登場。UQモバイルで新料金プラン発表。
2	JR東日本	246,790	2021年のダイヤ改正で首都圏在来線の終電時刻を繰り上げると発表。
3	アップル(米)	195,334	『iPhone12』発表、23日から国内で販売開始。「商品」85%、「経営」4%。
4	ソフトバンク	156,049	ワイモバイルで新料金プランを発表。ほか配信サービス『バスケットLIVE』など。
5	NTTドコモ	142,663	『iPhone12』の料金発表、ひとり親家庭向けの割引プランなど「販売」39%。
6	NTT	135,778	NTTドコモの子会社化について各紙が解説。「提携・合併」66%、「技術」11%。
7	トヨタ自動車	135,146	『レクサス』のEVを発売。一律の定期昇給の廃止を労組が受け入れ。
8	旭化成	128,287	読売「ノーベル賞受賞者を囲むフォーラム」に名誉フェローの吉野彰氏が登場。
9	ツイッター(米)	121,592	米大統領選期間中にリツイートを一時制限。ほか警視庁の防災情報発信など。
10	日産自動車	120,120	朝日「凄腕しごとにん」に先行車両性能開発部の桑田敏久主管が登場。
11	グーグル(米)	102,104	読売で検索エンジンの世界シェアを解説。報道機関に記事使用料を支払いへ。
12	ニトリ	101,735	島忠に対するTOBを発表。「提携・合併」89%、「経営」10%、「販売」1%。
13	みずほFG	98,277	読売の連載コラム「企業研究」で取りあげられた。12月から週休3-4日制を導入。
14	東北電力	96,993	女川原発再稼働の請願を宮城県議会が採択、被災原発で初。
15	ユーチューブ	89,354	中日ドラゴンズチャンネルの登録者数急増。高知県警のPR動画などが話題に。
16	JR東海	82,278	読売「地球を読む」に葛西敬之名誉会長が登場。ほか新型リアの試乗会など。
17	マイクロソフト(米)	77,687	朝日「朝日地球会議2020」にグレン・ワイル主席研究員が登場。「人」58%。
18	サムスン電子	77,382	李健熙会長が死去。2020年7-9月期決算で売上高が過去最高に。
19	東京海上日動火災	74,667	読売「私のエントリーシート」に人事企画部の河嶋大氏が登場。「人」81%。
20	J・フロントリテイリング	72,456	日経「MyStory」に山本良一取締役会議長が登場。「社長・会長」99%。